

参考データ：『過去 10 年間の豪ドル/円相場と ATR の推移』

ドル/円およびクロス円市場は「円の上昇時に変動幅が拡大しやすく、円の下落時に変動幅が縮小しやすい」という傾向を持っている。特に変動幅縮小の過程では円安になりやすいというのが円相場の構造である。相場というのは「確率」に賭けるゲームである。相場のクセや構造を知っていれば、投資家は勝つ確率の高い局面でポジションをとることが可能となるだろう。具体的には「相場の変動幅と上昇・下落の傾向」が認識できれば、優位性をもって相場に参入できるだろう。

筆者が「相場の変動幅」を計測する方法として使っている指標（計算式）が「ATR アベレージトゥルーレンジ」である。ATR(アベレージトゥルーレンジ)とは、「当日高値-当日安値」「当日高値-前日高値」「前日終値-当日高値」の3つのうち最大の値幅(マド明けを含む最大値幅の計測)を当日の「真の値幅(TR = トゥルーレンジ)」とし、この「真の値幅(TR = トゥルーレンジ)」の20日移動平均がATR(アベレージトゥルーレンジ)である。ドル/円や豪ドル/円などのクロス円取引は、このATRが下がる過程で円安、上がる過程で円高となるケースが多い。これは対円相場固有の傾向である。通貨オプション市場をみているとよくわかるのだが、ユーロ/ドルやポンド/ドルにはこのような構造はない。

日本と海外の金利差に着目した円キャリー取引(低金利の円を売ってより金利の高い外貨を買う取引)は、金利収益がプライオリティーなので相場変動幅の低位安定が必要条件となる。したがって、基本的にATRの低下時が円キャリー取引にとって有効な時間帯となる。

本来、円キャリー取引はレバレッジ2~3倍でおこなう売買手法で、金利が入ってくる限りは基本的に7年以上放置するのがよいとされている。ところが昨今のハイレバレッジブームの影響で、多くの投資家が3倍以上のレバレッジをかけて円キャリー取引をおこなっているのが現状である。2007年3月から今年の3月まで対円相場の変動幅が急上昇する局面が4回あり、円売りおよび円キャリー取引のポジションを持っていた投資家は大きな痛手を被った。レバレッジを3倍以上かけたキャリー取引は、市場から最大損の状態で追い出されるリスクの大きい取引である。レバレッジを上げるなら相場変動に対して防御策を講じる必要があるだろう。過去の急激な円高は「ATRの上昇がトリガー」となっており、筆者は確率的な見地からATRの上昇時は円売りおよび円キャリー取引を休止している。筆者が参考情報として紹介している「ATRを利用したキャリー取引手法」の目指すところは「大変動リスクの回避」であり、あくまでも「ディフェンス(防御)」をルールとした取引手法である。

「ATR を利用したキャリー取引手法」は将来の収益を保証する取引手法ではなく、筆者の相場認識の手段に過ぎない。「相場をいかにして認識するか」というのは永遠の課題である。どのような投資理論や投資手法を使っても相場を正確に予測することは不可能である。

以下に紹介するのは、過去 10 年間の「豪ドル/円と ATR」のチャートである。円相場は「ATR の上昇時に円高・ATR の下落時に円安」となりやすい傾向がある。これは傾向であって絶対ではない。過去、幾度もはずれた局面を筆者は経験している。

「ATR の上昇時に円高・ATR の下落時に円安」というロジックが外れた局面について、チャートでは「ATR の下落時に円高となったケースを金色の矢印」、「ATR の上昇時に円安となったケースを赤色の矢印」で表示している。青色の矢印で表示されている場合は相場が概ねロジック通りに動いた局面である。

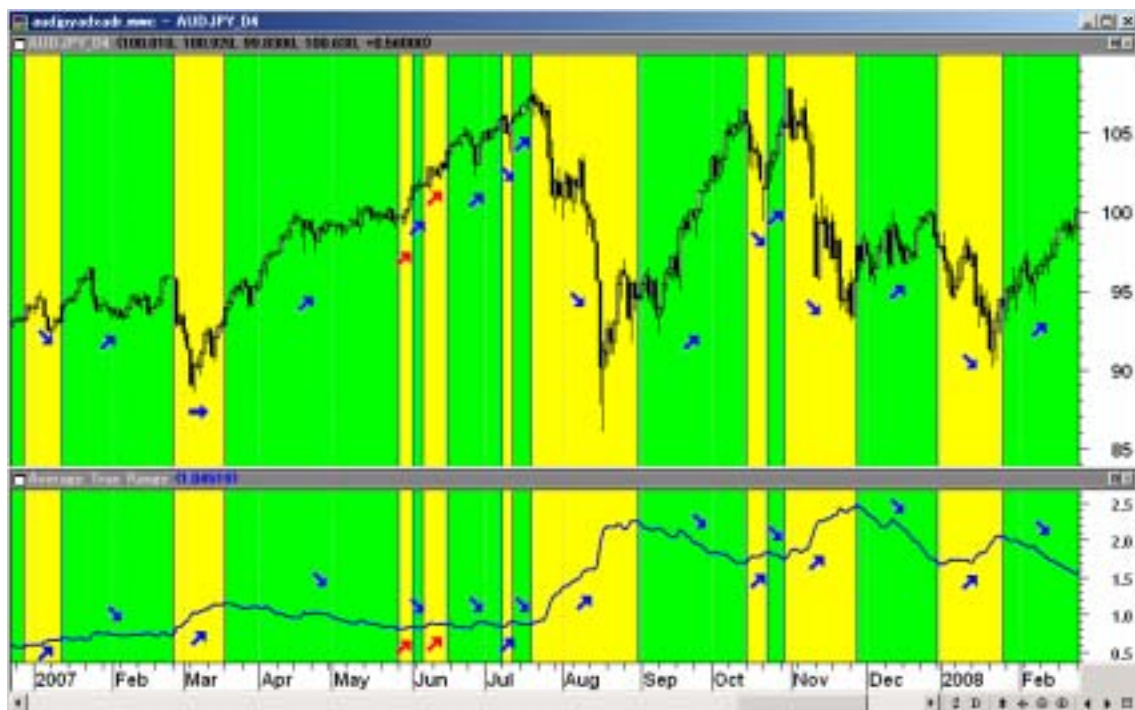
筆者は「ATR を利用したキャリー取引手法」を数学的なシステムモデルではなく、パターン分析に近いアナログモデルとして使っている。したがって、ベンチマークは計算していない。また、本資料に掲載されているデータ・情報については正確性・安全性等を保証するものではないので注意されたい。「ATR を利用したキャリー取引手法」は参考情報のみの提供を目的としており、その売買手法の有効性は読者ご自身で判断されたい。

(2008 年 8 月 椎名由起夫)

2008年の豪ドル/円（日足）とATRの推移（データは2008年8月8日まで）



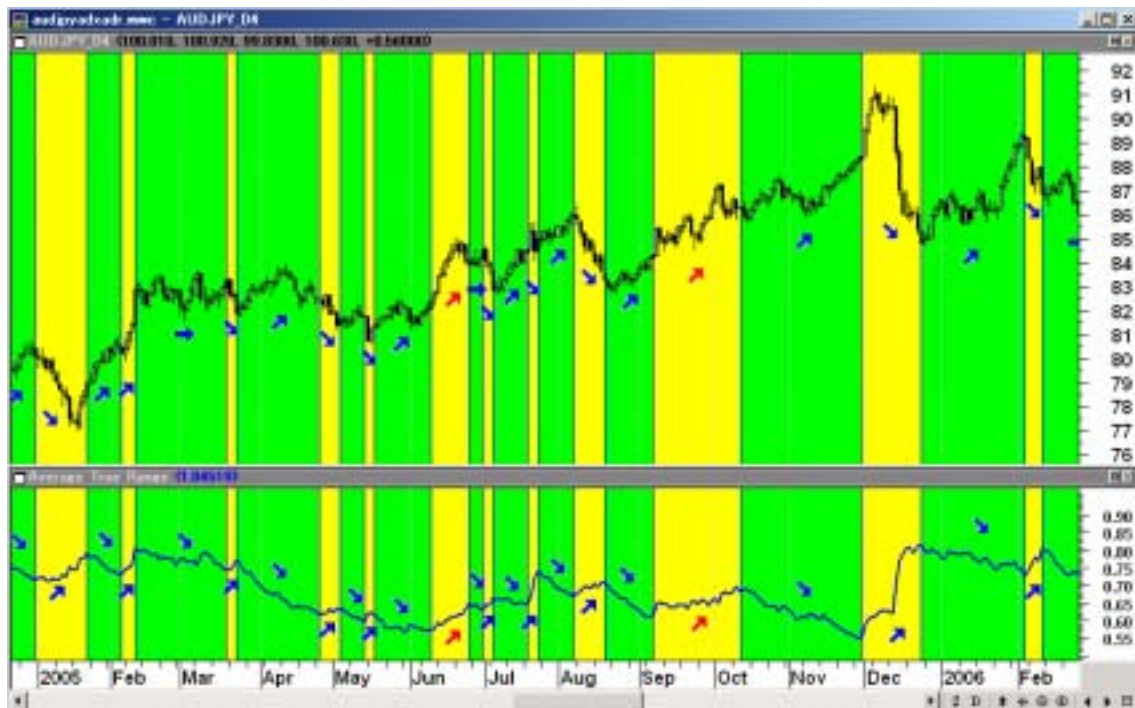
2007年の豪ドル/円（日足）とATRの推移



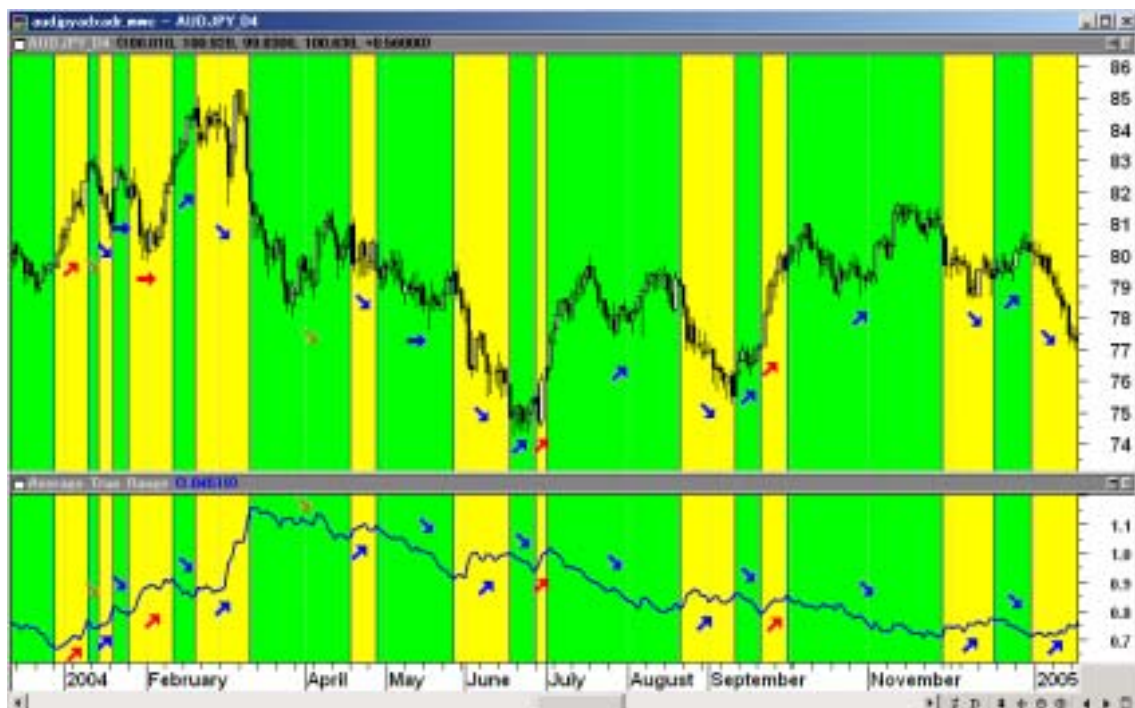
2006年の豪ドル/円（日足）とATRの推移



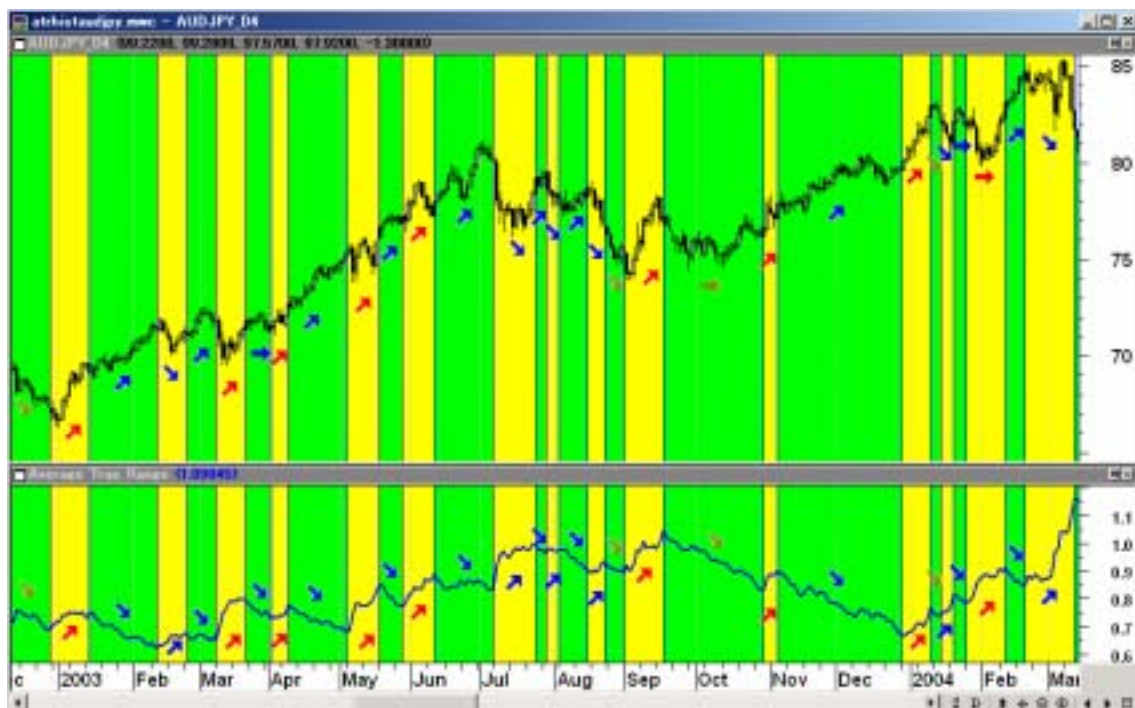
2005年の豪ドル/円（日足）とATRの推移



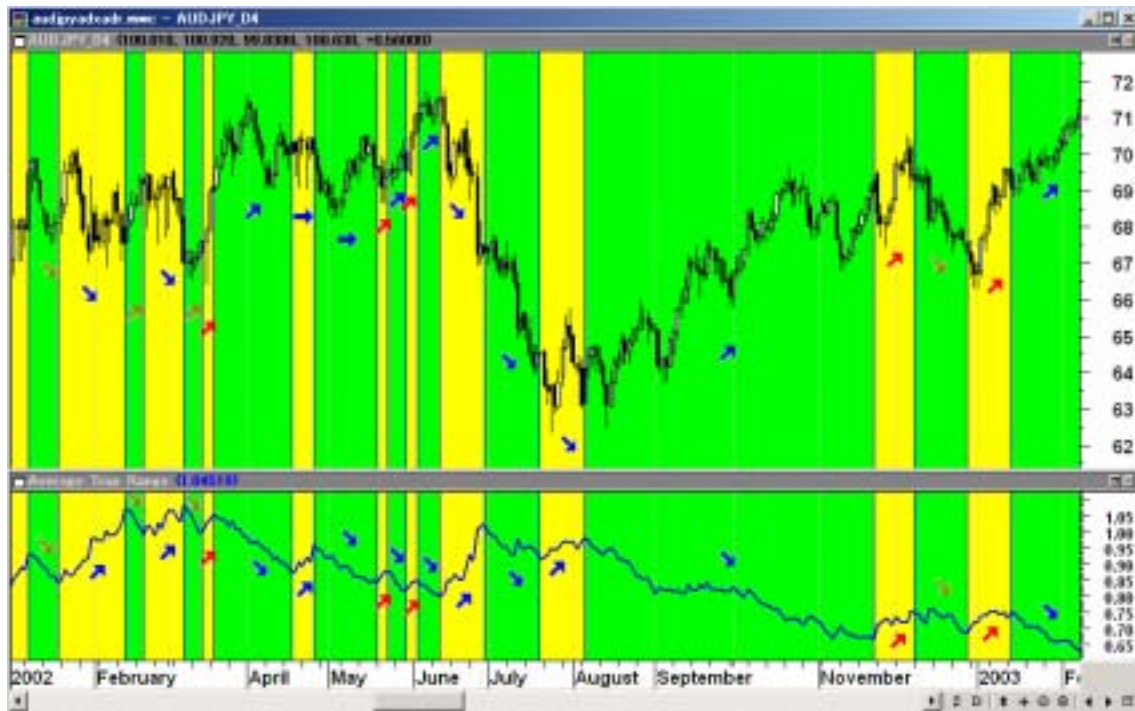
2004年の豪ドル/円（日足）とATRの推移



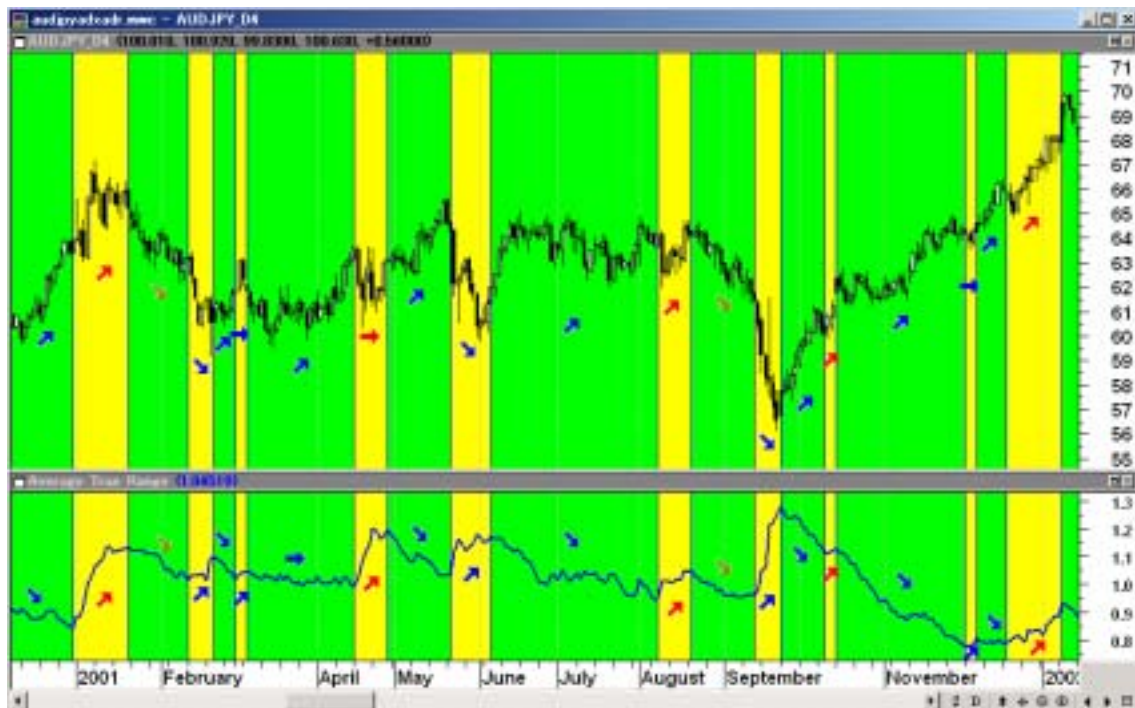
2003年の豪ドル/円（日足）とATRの推移



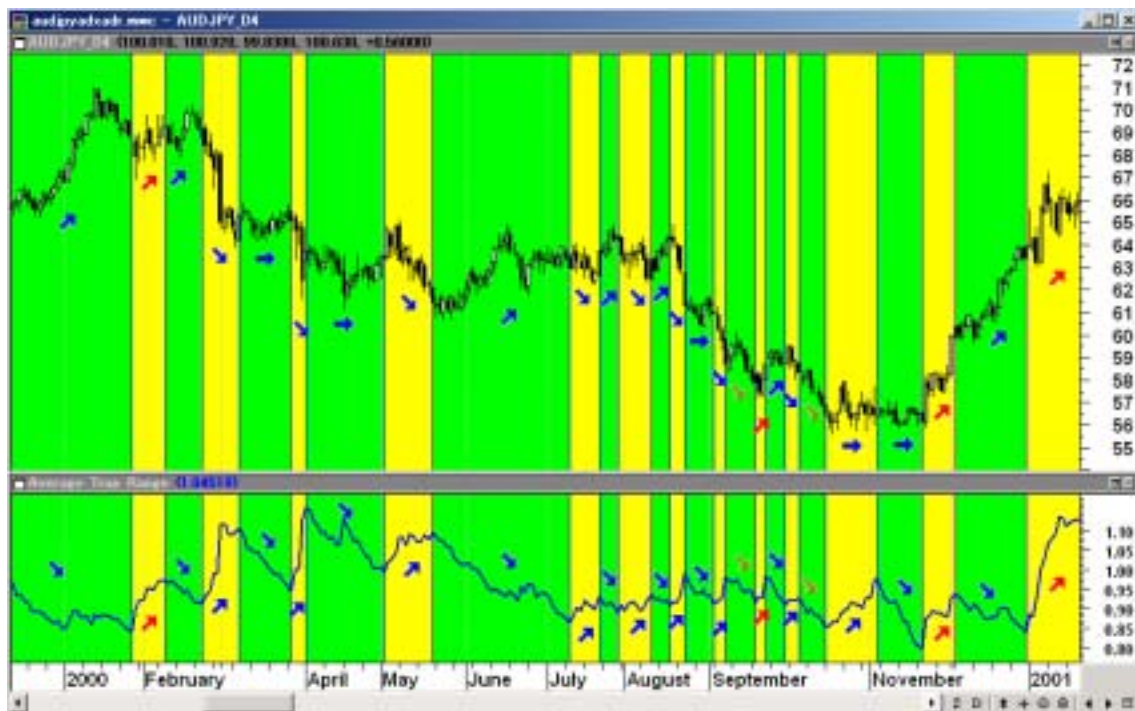
2002年の豪ドル/円（日足）とATRの推移



2001年の豪ドル/円（日足）とATRの推移



2000年の豪ドル/円（日足）とATRの推移



1999年の豪ドル/円（日足）とATRの推移



1998年の豪ドル/円（日足）とATRの推移

